

「家がいいね」第98号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2012. 7. 2

「一任」しても いいのですか？

自分の意思を伝える大事なチャンスでも、つい「おまかせします」と言ってしまうことがあります。せんか。幾つかの場合を考えてみました。

あなたが手術や治療を受ける時、よく分からないうからと、納得する以前に質問を押し殺していいでしょうか。相談するのも遠慮していませんか。

「この国に行く末を決める決断の時にも、幾つもおまかせします」が横行しています。選挙で選ばれたことで任期中は、議員個人が全権委任されたようにふるまう。その集団の中では、「私に一任せよ」と数と力で押し切る。何を解決するかという議論より、「これなら反対できないだろう」という手続きに腐心するので、解決は遠くなります。

身近で気になるのは伊勢病院の再建。幾つもの議論すべき点が指摘されてきました。具体的検討委員会では「混乱を招く」「デリケート」の理由で非公開となりました。結果がでるまで「一任しなさい」です。3月の2000人の市民アンケート結果も、公表しないのでしょうか。不思議ですね。

自分で考える「食べられなくなったら」

いざ、そうなったら病院で勧められるのが、最近では胃瘻（いろう）になります。急いで結論を出すには考えることが多すぎます。一任せずに、想定内のこととして、一度は考えてみましょう。そんな市民公開講座を、9月2日(日)の午後、日赤の1階ホールで「終わりよければ」いせの会が主催して開きます。詳しくは次号にて。

混乱しつつ、デリケートに考えましょうよ

人は生き物です。身体は頭の思うようにはなりません。

クヨクヨ、ぐずぐず、優柔不断、後ろ向き思考でも、いいんです。絶えずゆらいで、流れ続けることが本来の生き物の姿です。自分ひとりだけで考える事を離れて、



他人が持つ気持ちを聞いても悪くはありませんよ。

みえ生と死を考える市民の会 講演会

7月8日(日) 13時~15時

津市 三重県総合文化センター

中ホール 会員外も可

佐治晴夫先生(鈴鹿短大校長)

「いのちという名の万華鏡」

「人間の不思議を考える」

大きな災害を経験すると、私たちの存在の根底をゆさぶられるように思います。でも命が終わっても、いのちが続くと思えるのは、なぜでしょうか。私たちは宇宙のひとつかけらとして繋がっています。そんな不思議のひとつとつを宇宙物理学者「佐治博士」にお聴きします。

縁(えにし)の家で

在宅ホスピス活動への支援としてNHK厚生文化事業団中部支局の主催で、演奏会が開かれます。津軽三味線の松田隆行さんのミニライブです。



自宅で養生されている、がん患者さんとご家族に、力強い贈り物の時間になると思います。無料です。ぜひご参加ください。

7月9日(月) 18時半から1時間弱

(準備のため、事前連絡をお願いします)

休診のお願い

7月14日(土) 臨時休診

島根がんサロン養成塾に出張します。その間の在宅患者さんには、代診の医師が対応します。

お盆休みの期間は、

8月13日(月)~15日(水)です。よろしくご了承をお願いします。前後も休診日になります。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805

三重県伊勢市御園町高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp

ホームページ <http://isezaitaku.com>